

事業者排出量削減報告書

| | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|---------------|---------------|------------------|-------|-------|---|---|
| (宛先) 京都府知事 | | 令和3年7月27日 | | | | | | | | |
| 報告者の住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 京都市中京区壬生花井町3番地 | | 報告者の氏名(法人にあっては、名称及び代表者名) NISSHA株式会社 代表取締役社長 鈴木 順也 電話 075-811-8111 | | | | | | | | |
| 主たる業種 | 主として管理事務を行う本社等 | | | | | 細分類番号 | 1 | 5 | 0 | 0 |
| 事業者の区分 | <input checked="" type="checkbox"/> 第12条第1項第1号 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第2号又は第3号 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第4号 | | | | | 京都府地球温暖化対策条例施行規則 | | | | |
| 計画期間 | 令和2年4月から令和5年3月まで | | | | | | | | | |
| 基本方針 | 環境マネジメントシステムをレベルアップさせ、環境目的と環境目標の設定・実施・見直しにより継続的改善に努める。(当社環境方針で電気・ガスの効率的利用により気候変動に対応することを重点項目に挙げている。四半期に一度開催されるサステナビリティ委員会環境安全部会で、関係各社を含めた全部門の取り組みを推進する。) | | | | | | | | | |
| 計画を推進するための体制 | 電気・ガスなどのエネルギーの効率利用を推進する推進者と管理者を部門ごとに選任。全社的には社長が委員長を務める「サステナビリティ委員会」の分科会「環境安全部会」を四半期に一度開催し、目標等の進捗状況を確認・報告する。 | | | | | | | | | |
| 温室効果ガスの排出の量 | 温室効果ガスの排出の量 | | 基準年度 (29~1)年度 | 第1年度 (2)年度 | 第2年度 (3)年度 | 第3年度 (4)年度 | 増減率 | | | |
| | 事業活動に伴う排出の量 | | 3,037.6 トン | 3,268.3 トン | | | 7.6 | パーセント | | |
| | 評価の対象となる排出の量 | | 2,882.8 トン | 3,268.3 トン | | | 13.4 | パーセント | | |
| 実績に対する自己評価 | | ・本社増改築エリアの稼働等によって電気使用量が増加した。 ・省エネ設備、太陽光発電設備などの導入を引き続き検討して排出量抑制に努める。 | | | | | | | | |
| 原単位当たりの温室効果ガス排出量等 | 事業の用に供する建築物の用途 | 原単位の指標 | 基準年度 (1)年度 | 第1年度 (2)年度 | 第2年度 (3)年度 | 第3年度 (4)年度 | 増減率 | | | |
| | 事業所 | 事業活動に伴う排出の量 (延床面積×人数) | 82.30 | 94.68 | | | 15.04 | パーセント | | |
| | | 事業活動に伴う排出の量 () | | | | | | パーセント | | |
| 実績に対する自己評価 | | ・本社増改築エリアの稼働や本社社員数の減少により増加した。 ・省エネ設備、太陽光発電設備などの導入を引き続き検討して排出量抑制に努める。 | | | | | | | | |
| 重点的に実施する取組の実施状況 | | | 基準年度 (1)年度 | 第1年度 (2)年度 | 第2年度 (3)年度 | 第3年度 (4)年度 | 備考 | | | |
| | | | 111.0 | 105.0 | | | | | | |
| 具体的な取組及び措置の内容 | (2)年度 | | 新棟建設・旧棟改築時の省エネ設備の採用(高効率照明・空調) | | | | | | | |
| | (3)年度 | | 蛍光灯の高効率化(HFタイプ相当) | | | | | | | |
| | (4)年度 | | 蛍光灯の高効率化(HFタイプ相当)変圧器の高効率化更新 | | | | | | | |
| 通勤における自己の自動車等を使用することを控えさせるために実施した措置 | 措置の内容 | | 無し。新型コロナウイルス感染症予防対策のため、年齢や基礎疾患の有無によってはマイカー通勤を認める措置を実施している。(2020年6月~) | | | | | | | |
| | 上記の措置を実施した結果に対する自己評価 | | 2019年と比較して、マイカー通勤者が増加している。 | | | | | | | |
| 森林の保全及び整備、再生可能エネルギーの利用その他の地球温暖化対策により削減した量 | 区 分 | | 第1年度 (2)年度 | 第2年度 (3)年度 | 第3年度 (4)年度 | 備考 | | | | |
| | 森林の保全及び整備によるもの | | 0.0 トン | | | | | | | |
| | 地域産木材の利用によるもの | | 0.0 トン | | | | | | | |
| | 再生可能エネルギーを利用した電力又は熱の供給によるもの | | 0.0 トン | | | | | | | |
| | グリーン電力証書等の購入によるもの | | 0.0 トン | | | | | | | |
| | 温室効果ガス排出量の削減又は吸収の量の購入によるもの | | 0.0 トン | | | | | | | |
| 合 計 | | 0.0 トン | 0.0 トン | 0.0 トン | | | | | | |
| 地球温暖化対策に資する社会貢献活動 | 廃棄物ゼロエミッションの推進 小学校への環境学習の実施 | | | | | | | | | |
| 特記事項 | 令和2年1月1日、亀岡成形技術センターと亀岡工場の一部が当社グループ会社 ナイテック工業(株)亀岡工場として再編された。 超過削減量無し | | | | | | | | | |

- 注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。
 2 「細分類番号」とは、統計法(平成19年法律第53号)第2条第9項に規定する統計基準である日本標準産業分類の細分類番号をいいます。
 3 「基準年度」とは、計画期間の前年度又は計画期間の前の3年度の事業活動に伴う排出の量又は原単位の数値の平均をいいます。
 4 「増減率」とは、基準年度と比較した計画期間の平均の増加又は減少の割合をいいます。
 5 「重点的に実施する取組の実施状況」とは、温室効果ガスの排出の量を削減するために重点的に実施した取組の実施率を地球温暖化対策指針で定める方法により算出して記入し、その算出の根拠となる資料を添付してください。